

浅原六朗文学記念館を訪れ「てるてる坊主」を歌うツアー客



童謡の故郷 信州に旅して

テーマツアー好評

コロナ禍で影響を受けた観光業の需要が回復傾向にある中、信州を「童謡のふるさと」として旅する試みが始まっている。日本唱歌童謡教育学会（松本市笹賀）の協力の下、県外旅行会社がツアーを組んで昨年初実施したところ好評を博し、今月に再度催行された。信州の自然や景観を心に残る名曲を育んだ土地として訪ねることで観光振興と童謡普及の両面が期待される。

（有賀文香）

今月13日、池田町の浅原六朗文学記念館に三越伊勢丹ニッコウトラベル（本社・東京都）のツアー客10人が訪れた。同会上席理事の山田真治・松本短期大学教授を案内役に、県内各地の「童謡のふるさと」を2泊3日で訪ねる旅。同館では童

歌の情景や作者を訪ねる

トラベルから学会に相談を持ちかけ、旅程を組んだ。中信地方では絵本美術館森のおうちや安曇野ちひろ美術館で童謡の詩や挿絵にも触れたほか、中山晋平や高野辰之の故郷の中野市を訪ね、地元の小学生と歌で交流した。道中では山田教授の解説や合唱もあり、同社旅行営業部の寺澤欣吾アシスタントマネジャーは「年配者に非常に好評」と話す。

受け入れ側も「機会があれば今後も積極的に協力したい」（藤澤宜治・浅原六朗文学記念館長）と前向きだ。山田教授は「童謡唱歌に接する機会が減る中、さまざまな形で魅力発信のきっかけづくりをしたい。同様の取り組みが広がればうれしい」と話している。